

大学職員のためのレポート作成指導法講座

報告

金沢大学オンラインライティングセンターについて

2014年9月25(木)

金沢大学附属図書館中央図書館AV室

金沢大学 大学教育開発・支援センター 特任助教 久保田進一

金沢大学オンラインライティングセンターについて

本日の内容

- ◆ 1. オンラインライティングセンター(OWC)とは？
 - 1.1. ライティングセンター設置の背景
 - 1.2. 目的
 - 1.3. なぜ、オンラインなのか？
- ◆ 2. これまでの取り組み
 - 2.1. 金沢大学での取り組み
 - 2.2. 小松短期大学での取り組み
 - 2.3. 金沢学院短期大学での取り組み
- ◆ 3. 各大学のライティングセンターの取り組み
 - 3.1. 早稲田大学の例
 - 3.2. 津田塾大学の例
 - 3.3. その他の大学のライティングセンターの設置
- ◆ 4. これからの取り組み
 - 4.1. オンラインライティングセンターの設置
 - 4.2. アカデミック・ライティング入門
- ◆ 5. 今後の課題
 - 5.1. 需要の掘り起こし(営業活動)
 - 5.2. ライティングセンターTA(仮称)の確保と育成
- ◆ 6. 連絡先

1. オンラインライティングセンター(OWC)とは？

1.1. ライティングセンター設置の背景

- ◆ 北米ではライティングセンターは1930年代頃から、その原型となるものが存在しており、1950年代頃から北米の大学にその設置が広がりはじめ、現在、北米ではほとんどの大学にライティングセンターが設置されている。日本でも近年ライティングセンターの設置が増えてきた。その増えた理由としては、少子化や大学入試が多様化したことにより大学生の学力低下と社会から求められるスキルの変化にあると言える。

1. オンラインライティングセンター(OWC)とは？

1.2. 目的

- ◆ 大学間連携共同教育推進事業『学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築』の一環として、石川県内の各高等教育機関における学生の学習支援としてライティングの指導を行うことが目的。
- ◆ 「書くこと＝考えること」と言われるように、ライティングを通して、考えることを身につけさせる。それによって、相手にも明確に伝わる文章を表現できるスキルを身につけさせる。

1. オンラインライティングセンター(OWC)とは？

1.3. なぜ、オンラインなのか？

- ◆ これは、大学間連携共同教育推進事業の一環であり、大学コンソーシアム石川(UCI)が基盤となっている。UCI加盟機関は県内に点在しており、学生を一カ所に集めてライティング指導することは困難である。そのため、ICTの技術を使って、各高等教育機関の学生を支援することにある。
- ◆ オンラインのメリットとしては、遠く離れている学生へのサポートが可能であり、また、一度に多くの学生を見ることが出来る。

2. これまでの取り組み

◇ 2.1. 金沢大学での取り組み

- ◇ 昨年度から金沢大学の授業（ライティングの要素を入れた「クリティカル・シンキング」の授業と「新聞を使ってのライティング」）を通して、ライティングの添削および採点を試みた。
- ◇ その際に、大学院生をTA（ティーチング・アシスタント）として使い、ライティングセンターを構築する足がかりとした。

※これらの授業はシティカレッジの授業科目でもある。

2. これまでの取り組み

◇ 2.2. 小松短期大学での取り組み

- ◇ 昨年度、小松短期大学で1コマ（90分）の授業時間を使って、ライティングの講義を行って、読書感想文の書き方を指導した。その後、読書感想文（課題図書は『コマツ創業の人 竹内明太郎伝』）を書いて提出。その際、オンライン（ネット）を使って提出。
- ◇ その後、添削を行い、オンライン（ネット）を通して学生に返却。その際、模範の読書感想文も一緒に添付。

2. これまでの取り組み

◇ 2.3. 金沢学院短期大学での取り組み

- ◇ 今年度、金沢学院短期大学で1年生（30分）と2年生（90分）のクラスの授業時間を使って、読書感想文の書き方を講義した。その後、読書感想文（課題図書は各自が読みたいもの）を書いて提出。その際、オンライン（ネット）を使って提出。その後、添削を行い、学生に返却。

3. 各大学のライティングセンターの取り組み

3.1. 早稲田大学の例

- ◆ 2004年～スタート。
- ◆ 指導スタッフ6名（教員2名、助手4名）
- ◆ チューター約20名（学内の修士・博士後期に在籍する大学院生で専門的な訓練を受けた者）
- ◆ 指導対象として扱っている文章
- ◆ 授業のレポート・プレゼンテーション原稿・卒業論文・修士論文・博士論文・投稿論文・英語論文も含む
- ◆ 開室時間 学期中の平日（月～金）
（1セッション45分間） 10:40-17:15

3. 各大学のライティングセンターの取り組み

3.2. 津田塾大学の例

- ◆ 2008年～スタート。
- ◆ 指導スタッフ2名（教員2名）
- ◆ チューター3名（英語チューター1名、チューター2名）

- ◆ 指導対象として扱っている文章
- ◆ 日本語
- ◆ 授業の課題、レポート、留学やコースの志望理由書、大学院進学に関する書類、公務員試験・教員採用試験の論作文、サークル関連の文書、手紙、インターンシップや就職活動のエントリーシート（就職関連は学生生活課がメインの窓口ですが、ライティングセンターでも見えています）など
- ◆ 英語
- ◆ 英語論文、留学関係書類、手紙など（相談は原則英語で行います）
- ◆ 相談したい文章は、あらかじめ2部コピーして持ってくること。

- ◆ 開室時間 月～金（1セッション45分間）9:00-16:30

3. 各大学のライティングセンターの取り組み

3.3. その他の大学のライティングセンターの設置

- 関西大学（2010年～）
- 立命館アジア太平洋大学（2011年～）
- 広島大学（2013年～）
- 龍谷大学 ・ 神田外語大学 ・ 名古屋大学
- 同志社大学 ・ 上智大学 ・ 東京大学 etc.

多くの大学がライティングセンターを設置して、ライティング指導に取り組み始めてきている。

4. これからの取り組み

4.1. オンラインライティングセンターの設置

- ◆ 学生からのレポート・論文相談（書く以前の構想から書いたものの添削まで）をオンラインで受け付ける。
- ◆ 各大学の事情に合わせて、卒業論文・レポート・読書感想文などの指導を行う。

4. これからの取り組み

4.2. アカデミック・ライティング入門

- ◇ 開講期間 9月29日～2月16日
- ◇ 開講時間 月曜日 第4講時 19：10～20：40
- ◇ 開講場所 しいのき迎賓館 セミナールームB
- ◇ 授業の目標

アカデミック・ライティングに必要なスキル及び
アカデミック・ライティングに必要な論理的かつ
客観的かつ明確な文章力を身につける。

4. これからの取り組み

4.2. アカデミック・ライティング入門

- ◆ 学生の学習目標
 - ◆ ①書くことに苦手意識を持たないようにする。
 - ◆ ②文章の作法及び論理的思考を身につける。
 - ◆ ③明確な文章表現を身につける。

- ◆ 15回の授業のうち
 - 9回はオンラインでの授業
 - 6回は対面授業

5. 今後の課題

◇ 5.1. 需要の掘り起こし(営業活動)

他の大学のライティングセンターでもそうであるが、学生が主体的にライティングセンターに来て相談するということは、それほど多くはないので、授業の際に各先生方に学生への利用を促してもらう。

各大学の事情に合わせて、レポート・読書感想文などのライティングの課題を増やしてもらい、オンラインライティングセンターを利用してもらう。

5. 今後の課題

◆ 5.2. ライティングセンターTA(仮称)の確保と育成

今後、学生からのレポート添削を行うにあたって、TAの確保と育成が必須である。ある程度のTAを用意していなくては、対応はできない。また、その育成において、どのように継続した育成ができるのかが課題となる。

6. 連絡先

- ◆ 大学教育開発・支援センター
久保田 shinkubota@staff.kanazawa-u.ac.jp
TEL 076-264-5787

今後ともよろしくお願い致します。